



社会福祉法人いたるセンターの新たな法人案内「未来の地域包括DESIGN」に掲載した、未来予想図。SDGsの目標を10年後に達成できるように、すべての多様な人々に安全・安心をもたらす地域包括ケアのあるべき姿を描いています。



目次 contents

- 01 令和3年 年頭所感
いたるセンター 総括
谷山哲浩理事長
- 02 各事業部・施設長・
年頭所感
- 03 包括ケアセンター
サポートウイズ
あけぼの作業所
阿佐谷福祉工房
イタル成城
目黒本町福祉工房
クローバー
保育事業
SDGs推進室
すまいる高井戸
A型事業部
法人本部
- 04 新法人案内
「未来の地域包括
DESIGN」が
完成いたしました！
法人見学ツアーに
ついて

令和3年 年頭所感
社会福祉法人いたるセンター 理事長 谷山 哲浩

明けましておめでとうございませう。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。おかげさまで、1月14日現在、新型コロナウイルス感染症拡大のなか、当法人ではご利用者様および職員についても、感染者は1名も出ていない状況です。

これもひとえに、健康管理と衛生管理、感染予防を徹底して行ってきた職員およびご利用者様、保護者の皆様のご努力によるもので、心から感謝申し上げます。

1月8日から東京は再度、緊急事態宣言を発令、感染者は連日1千人を超え、大変な状況となっております。新型コロナウイルス感染症による重症者や死者の報道を見るたびに心を痛め、周囲には昨年同様、重苦しい閉塞感が漂っています。この「大変」な事態にあつて、どう生きるべきか、何をすべきかをひたすら考えました。「大変」という漢字は、「大きく変わる」と書きます。つまり、大変なときは「自らを大きく変える」ときです。また、大変な毎日

は、大きく成長できる毎日でもあります。私が、社会福祉法人いたる臨床発達指導センターの理事に就任したのが平成7年で、理事長に就任したのが平成7年で、すでに四半世紀を数えます。亡き父より受け継いだ「地域福祉ニーズに応えられる」社会福祉法人を目指し、その重責を務め果たすため、懸命に駆け抜けた歳月でした。度重なる関連法の改正、サービスを継続するための経営強化、重度化・高齢化するご利用者様への対応など、問題や課題は常に山積していましたが、多くの優秀な職員たちが育ち、支えてくれたおかげで、どんな難局も乗り越えてきました。杉並区天沼の地にはじめて施設を開設した時の礎石に刻まれた、「体験は人を育てる」という古代ローマの歴史家タキトゥスの言葉の通り、法人も職員も成長していったのです。

今後とも、社会福祉法人いたるセンターに、変わらぬご支援ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

「いたる賛助会」では「いたるセンター」の活動を支援していただける方を募集しています。「幸せな地域社会を作りたい」がこの会設立の趣旨であります。

年会費 1口5千円(何口でも可)
郵便振込 00110712892
口座 339217346 事務局 山本まで

A型事業部

マネジャー 杉岡 和彦
皆さま、新年あけましておめでとうございませう。今年もよろしくお願ひ申し上げます。新型コロナウイルスの第三波で感染が急拡大する中、新年早々緊急事態宣言が発令されましたが、お陰様でA型事業部のパン工房プクプク及び久遠チヨコレート事業は営業停止することなく運営を継続出来ております。

法人本部

事務局長 中島 學
年頭まず、法人本部は新型コロナウイルス感染症にすべての事業部のご利用者様も職員も罹患しないよう腐心しています。昨年防護服とゴーグルを準備し、BCPコンサルティング会社の指導もいただき、各事業部に的確な防護対策をお願ひしており、幸いにしてまだ罹患者は出ておりません。

令和三年を迎えて、いたるセンターは「揺りかごから墓場まで」という地域福祉サービスの提供と、自立と共生を求めて「働ける者はしっかり働こう」というミッションを継続して掲げます。従って、グループホーム事業の充実と訪問看護ステーションの医療との連携を模索するとともに、従来の就労支援事業の見直しと更に高い工賃の獲得を視野に入れていきます。いたるセンターの理念に基づく事業展開を進めるだけでなく、職員の待遇改善にも目を向けて、ご利用者様も職員も納得のできる環境整備を進めたいと考えています。四月には十七人の新しい仲間を迎えます。彼らが五月には事業場に配属され、支援員としてご利用者様の皆様と新しい人間関係を築いていきます。しかし、実践を通してだけでなく、支援とは何かを学ぶことも大切で、その研修の場も作り、いたるセンターの支援とはどういうものかも確立していきたいと考えています。ベテランは教えるだけでなく、さらに高度な支援も学べる環境作りも進めていきます。こうした多くの試みを実現し、新しいいたるセンターに生まれ変わっていくことを目指します。

新法人案内 「未来の地域包括DESIGN」が完成いたしました！

法人見学ツアーについて
※現在、新型コロナウイルス感染症拡大にともない、法人見学ツアーの実施は見送っております。ツアー再開の際には、本紙にて内容や日程をお知らせいたしますので、もうしばらくお待ちくださいませ。
電話：03-3392-7346
本部・採用担当：山本 義彦

いたる広報委員
発行責任者＝谷山 哲浩
社会福祉法人いたるセンター
〒167-0032
東京都杉並区天沼1-15-18
TEL：03-3392-7346
FAX：03-3391-8039
Eメール：info@itarucenter.com
HP：http://www.itarucenter.com/
発行日/2021年11月15日
ご意見・ご感想がございましたら、上記のFAX、Eメール等でお声をお寄せ下さい。
いたる広報委員まで。

各事業部 施設長

年頭所感

包括ケアセンター

ゼネラルマネジャー 白瀧 則男

あけましておめでとうございます。昨年、新型コロナウイルス感染症の発生により大変な一年になりました。グループホームは住まいの場として、帰る家の無い方はグループホームで受け入れなくてはならず、職員スタッフ・入居者・保護者の方々にも多大な心労をおかけしました。幸いにもグループホームでは一人の感染者も出ませんでした。年末から第三波が発生し、今年に入って緊急事態宣言も発令されました。グループホームではスタッフ・入居者で感染予防の徹底を図り今後とも一人も発症しないように万全を期してまいります。

さて、グループホーム事業部では来年度に杉並区今川に建て貸し方式の新築グループホームを2棟（定員20名）と世田谷区成城に住宅改修型のグループホーム（定員5名）を開業いたします。また、老朽化の進んでいる女性ホームを移転して新築開設の予定です。来年度以降も法人所有のグループホームも含めて老朽化しているホームを終の棲家として安心して過ごせるようにグループホーム建設計画をたててまいります。

サポートウイズ

マネジャー 塚田 充昭

サポートウイズは、昨年12月に分散していた移動支援、訪問看護、居宅介護支援の各事業を阿佐谷北の一軒家に集約させ新たなスタートを踏み出しました。そして新たにいたる相談室を取り込むことにより、障害と高齢分野の相談からサービス計画作成までの連携、ケアマネジメントプロセスから必要なサービスの実行までワンストップのシームレスな連携を実現させることが可能となりました。これにより、いたるセンターの理念でもある、「住み慣れた地域での誰一人取り残さないサービス」を実現し、ご利用者様やご家族様の高齢化などによって高度化し複雑化するニーズに対応し、来るべき2025年問題へ適切に対応することが可能となると考えております。

また次年度の事業計画として更なる地域福祉と医療・介護の有機連携を図るべく、訪問看護ステーションのサテライト事業所開設と、新たな医療サービスの開発を提案いたします。

2021年は年初より緊急事態宣言の発令という近年稀にみるスタートとなつてしまいました。が、これからも地域の皆様方とご利用者様、ご家族様に選ばれ、求められるサービスの提供を目指してまいります。

あけぼの作業所

施設長 高木 知子

あけぼの作業所は新しい生活様式を継続しながら、日々の作業を行っています。

新型コロナウイルス感染症の影響で受注は減少しておりますが、新たにスパイスキットの作成を請け負いました。受注作業で、8種のスパイスを分量通りに計量して封入します。普段から計量、袋詰め慣れているご利用者様は問題なく行えています。商品は、百貨店等のイベントで販売されています。また、中止が続いている外販の代わりに、手芸品のネット販売も開始する予定です。今日は日に4回の施設内消毒、手洗い、手指消毒、換気、ご利用者様のマスクの着用率98%で予防しています。いつ収束するか分からない新型コロナウイルス感染症の徹底、私達が必要とする職員の確保の難しさと等々、厳しい環境の中にいます。ご利用者様の皆さんと共に、職員も成長させて頂いた事に感謝申し上げます。

阿佐谷福祉工房

施設長 池田 佳津男

明けましておめでとうございます。昨年は新型コロナウイルス感染症により、皆様方におかれましても大変な一年だったと存じます。阿佐谷福祉工房におきましても予定しておりませんでした様々な行事がことごとく中止に追い込まれ、楽しみにして頂いていたご利用者様には申し訳ない気持ちで一杯です。そのような状況の中、新しい取り組みとして杉並区が実施する農福連携の一環で農園をお借りして農作物の栽培を開始しました。JAの方に指導頂き、ご利用者様に野菜の栽培をして頂いています。秋にはご利用者様に様々な野菜の収穫を体験して頂きました。採れた野菜は給食として全てのご利用者様に食べて頂くことができました。農園の広さ等の都合で、限られたご利用者様にしか参加頂けていませんが、今年も参加してもらおうご利用者様の数を増やし、出来るだけ多くのご利用者様に収穫体験をして頂くことを考えています。

今年もまだ新型コロナウイルス感染症は収束の兆しが見えない状況です。引き続き万全の感染防止の対策をして運営して参る所存です。

イタール成城

施設長 五木田 義之

あけましておめでとうございます。日夜問わずご利用者様がいらっしゃる環境は杉並から離れた11年ぶりです。生活介護、共同生活援助、短期入所、三事業の意義を改めて学んでいます。そんな中、事業継続に必要な力は「人」であることを再認識した出来事がありました。

年末が差し迫る頃、共同生活援助「バンブル」の屋台骨を担う職員が不慮の事故で長期入院を余儀なくされてしまいました。ご本人もとても悔しい思いをしている最中、法人本部並びに包括ケアセンターの皆様が、一丸となつてフォローしていただきました。とても心強く、お陰様で無事に本年を迎えることが出来ました。この場を借りて改めて御礼申し上げます。

法人が大きくなるにつれて、物理的・心理的に遠く感じたり、本音を無意識に埋め込むような息苦しさを感ずる時があります。ご利用者様・職員を問わず、支えや救いが必要な方々の息遣いが感じられるような機微と、それを具に発信し繋げていくことが、支援者として求められていることを実感しました。まもなく開所から丸6年が経ちます。成城での包括的なケアが結実できるようこれから努めていきます。どうぞ今後とも宜しくお願い申し上げます。

目黒本町福祉工房

施設長 森川 正

謹んで、新年のご挨拶を申し上げます。目黒本町福祉工房職員の皆様、法人・施設職員の皆様におかれましては昨年来新型コロナウイルスの依然厳しい状況の中、ご尽力いただき感謝いたします。

ひとえに、職員一人ひとりがご家族・関係者様と共にご利用者様の支援に打ち込んでいくことが、ひいては地域社会への貢献となつていくと強く感じています。さて、目黒本町福祉工房では新規事業「利用時間外活動支援事業」（目黒区地域生活支援事業）を昨年開始し、ますます地域の皆さまのご要望に応え、より多くの方の支えになれるよう工房職員と力を合わせ、取り組んでいます。また、今年も新商品の開発や生活介護・就労継続支援B型一体となった作業を増やし、ご利用者様のやりがいや社会参加の可能性をご家族・関係者様と一緒に広げて行きます。皆様と揃って開設10年を素敵な笑顔で迎えられるように、今後も目黒本町福祉工房は歩んでまいります。

クローバー・マルコ

施設長代理 仙石 宏樹

昨年は年初より新型コロナウイルスの大流行が始まり、感染症の流行に備える事業運営という前代未聞の事態にみまわれた一年でした。特に緊急事態宣言が発令された4、5月に閉じてはご利用者様の受け入れも半減するといった状態となり、感染症対策と継続的な事業運営の両立をせまられる大変苦しい状況でした。幸いご利用者様から一名の感染者も出さずに一年過ごすことができました。またご利用者様受け入れ数もまだまだ完全な回復という状態ではありませんが7割近くまで回復しましたことは皆様のご協力があったことですので、職員一同誠に感謝しております。年が明けすぐに緊急事態宣言が再発令されましたが、ワクチンの投与も2月下旬より始まるといった情報もありますので事業所としては感染症対策を徹底させつつ今年度を何とか無事に乗り切り、令和3年度は再びご利用者様が100%クローバーでの余暇を楽しんでいただけるようになることを切に願っております。

ピヨピヨおうちえん（保育）

マネジャー 大上 茂樹

新年明けましておめでとうございます。昨年はコロナ禍や駅前園の水漏れ事故等色々な問題がありましたが、多くの皆様にお助けいただきながら、職員全員が前向きに取り組み、大過なく乗り切ることが出来ました。皆様に温かく見守って頂いたことに心より感謝申し上げます。

今年もまだまだ油断ならない日々が続きますが、昨年の経験で力をつけた職員が一丸となつてあたつて行きますのでご支援よろしくお願い致します。保育園も事業所内として園児2名でスタートしてから8年目を迎えます。おかげさまで子ども達も職員も健康で、活気に満ちた新年を迎えました。

しかし、国を挙げての子育て支援という事で、厚い補助を受けている保育園ですが、次第に保育園が余剰となる日が近づいています。

ピヨピヨおうちえんは両園とも、保護者に愛され必要とされる保育園であり続ける様職員一同精いっぱい努力してまいりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い致します。

SDGs推進室

室長 渡邊 菜都

新年明けましておめでとうございます。SDGs推進室の渡邊と申します。

当事業部は三井不動産リアルティ株式会社様が荻窪に開設した障害のある方中心の事務所（業務サポート室荻窪事務所）のシヨブコーチなどのサポートを行なっております。昨年は、新型コロナウイルスの流行により、障害のある社員様も在宅勤務の期間が発生しましたが、その業務内容や生活リズムの崩れ、モチベーション維持が課題となりました。そのため、在宅でできる業務の切り出しや、業務スキル向上のための練習課題の作成と添削、生活リズムの確認に注力してまいりました。

事務所内での業務の際は消毒、手洗い、マスク、換気を徹底し、安全に業務を遂行することができました。今年も、昨年に引き続き、対策が必要な一年になるかとありますが、一つ一つ着実に取り組んでまいります。新しい年が更に良い年になるよう祈念致しまして、新年の挨拶とさせていただきます。

すまいる高井戸

センター長 春山 陽子

あけましておめでとうございます。すまいる高井戸は今年4月より、杉並区より、緊急時のコーデイネーター事業を受けることになりました。国が進める地域生活支援拠点等の整備の一部で、障害者の方の親つき後や高齢化に備えて、地域で整備をしていきます。

緊急時のコーデイネーターは、今後、サービス等利用計画作成時に、相談支援専門員等に、緊急時の計画も一緒に立ててもらい、緊急時には、相談支援専門員や、4月から杉並区が設置する基幹相談支援センターのコーデイネーターと連携しながら、迅速な相談支援やシヨブトスタイ等へつなぐ支援をしていきます。

ほかに、グループホームや一人暮らし等への生活の場を体験したり、人材の育成をおこなうなど、地域生活支援拠点等の整備を杉並区は進める予定です。詳しいことは、次号でお話ししたいと思います。今年も、すまいる高井戸は、皆さんの相談にチーム一丸となつて応えていきたいと思っております。よろしく申し上げます。